

## 更に上る一層の樓

昨春來のコロナウィルスの猖獗は一向に収まりませんが、会員諸氏におかれては息災にお過ごしのことと存じます。武道は礼に始まり礼に終るといいますが、「礼」の中身は様々で、「礼は備えなり」という言葉もあります。「備えあれば憂いなし」とは、危機に備えて事前に準備せよ、ということであり、武道でいう「残心」がこの具体例です。相手の動きに即座に対応できる心の備えこそ、武道人が常々心がけていなければならない要諦で、コロナにかからない用心も当然その「備え」に入るでしょう。

7月18日に、関東地区昇段審査会を、感染予防対策に心を配りながら行いました。今後も感染対策に留意しつつ、可能な範囲で、指導者研修会・講習会、昇段審査会等を開催したいと考えております。

諸事情で一時中断していた最高師範のウェブ稽古も再開しました。コロナによる様々な困難を乗り越えつつ、不断の稽古による技術の向上と人格の陶冶を重ねて行こうではありませんか。

登山でも階段でも、一步一步を重ねないと頂上には到達しません。頂上に至る道は一つではないでしょう。様々な道を歩き続ければ、いつか頂上にたどり着いていると、先人の言にあります。今から1300年ほど昔、唐の時代の詩人である王之涣が、「鶴鵲樓に上る」という詩で、「千里の眼を窮めんと欲し 更に上る一層の樓」と詠んでいます。景色を嘆賞するためだけではなく、人生すべてに渉る気構えではないでしょうか。精進せよ、精進せよと。

令和三年八月